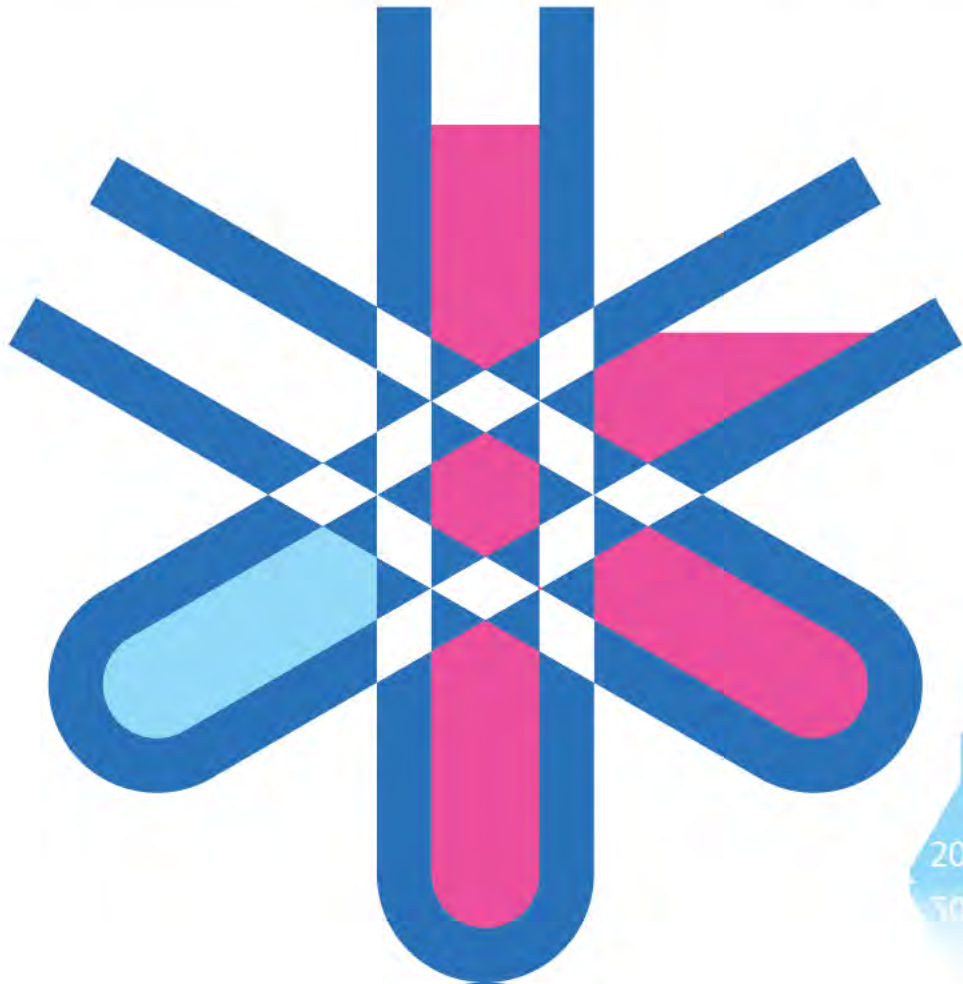


検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成29年8月号 目次

【トピックス】

- 横浜市における2016/2017シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析 1
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症のまとめ -2016年分離株について- 5

【感染症発生動向調査】

- 横浜市感染症発生動向調査報告 7月 7

【情報提供】

- 衛生研究所WEBページ情報 11

横浜市における2016/2017シーズンの インフルエンザウイルス流行株の解析

- 横浜市における2016/2017シーズンのインフルエンザの流行は、AH3型ウイルスが早期から主流となり、シーズン後半には両系統のB型ウイルスが混合し、長期間流行が続きました。病原体定点調査での分離・検出数の割合は、AH3型ウイルス75%、ビクトリア系統のB型ウイルス15%、山形系統のB型ウイルス9%、AH1pdm09ウイルス1%で、B型ではビクトリア系統のウイルスが優勢でした。
- AH3型ウイルスの性状はワクチン株に対する中和反応性の低下が66% (30株中20株)にみられ、変異株の割合が高くなりました。HA遺伝子系統樹解析ではすべてサブクレード3C.2aに含まれ、さらに4つのグループに分けられました。
- ビクトリア系統と山形系統のB型ウイルスの性状はワクチン株と同等であり、HA遺伝子系統樹解析では前者はクレード1Aに、後者はクレード3に含まれました。
- AH1pdm09ウイルスの抗原性状は昨シーズンと同様ワクチン株と同等であり、HA遺伝子系統樹解析ではクレード6B.1に含まれました。
- 入院・重症例ではAH3型ウイルスによる事例が78% (9例中7例)と多く、死亡例もみられました。
- 抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、耐性株による地域流行はみられませんでした。

【インフルエンザ様疾患の患者数】

2016年6月から2017年5月までにインフルエンザ定点から報告されたインフルエンザ様疾患患者数は、定点あたり318人で昨シーズン同期の300人をやや上回り、過去10年では2番目の規模の流行でした。今シーズン(9月以降)は11月第46週に流行の目安となる定点あたりの報告数1.0人を超え、1月第4週(1月30日からの週)に47.8人とピークとなりました。その後、徐々に減少し5月第19週(5月15日からの週)に定点あたり1.0人を下回りました(図1)。

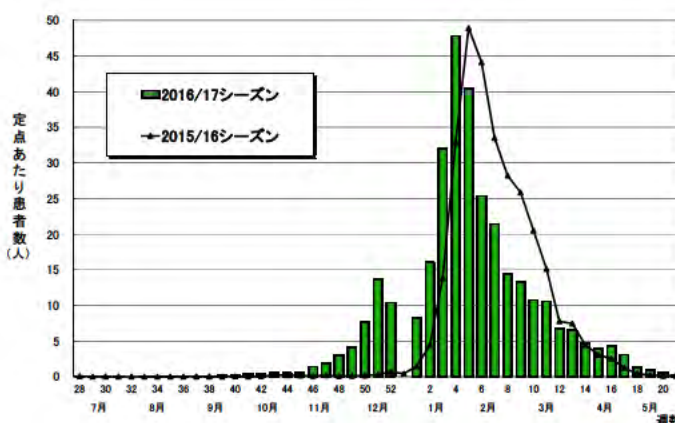


図1 定点あたり患者数

【病原体定点ウイルス調査】

病原体定点ウイルス調査ではインフルエンザを疑う663件を検査し、AH3型ウイルス174件、ビクトリア系統のB型ウイルス34件、山形系統のB型ウイルス20件、AH1pdm09ウイルス2件が分離・検出されました。今シーズンは9月第38週に港北区の小児科定点からビクトリア系統のB型ウイルスが、翌10月第39週に戸塚区の内科定点からAH3型ウイルスがはじめて検出されました。AH3型ウイルスは10月第41週から徐々に増え始め、1月第3週をピークとして5月第20週まで長期間分離・検出が続きました。一方、B型ウイルスはビクトリア系統のウイルスが11月、12月、1月に散發で分離・検出されましたが、流行が始まったのは2月末からでした。山形系統のウイルスは1月第5週に磯子区の小児科定点からはじめて分離され、3月以降5月第20週まで分離され、両系統が混在した流行でした。

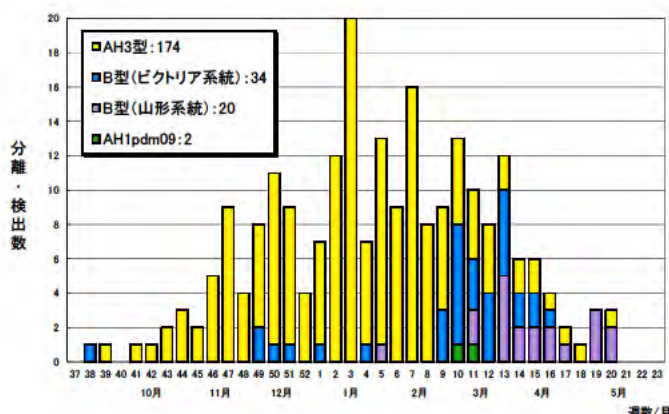


図2 病原体定点インフルエンザ分離・検出状況

ビクトリア系統と山形系統のウイルスの比率は63.0%対37.0%でビクトリア系統のウイルスがやや優勢でした。昨シーズン主流であったAH1pdm09ウイルスは、3月に2株分離されたのみでした(図2)。

表1 集団かぜ調査結果

発生年月日 (採取日)	週	区	施設	検体数	ウイルス分離		遺伝子検索				総合判定	
					分離 株数	型	分離 ^{*1} 陰性数	HA 遺伝子	陽性 件数	NA ^{*2} 遺伝子		陽性 件数
2016.10.12	第41週	緑	中学校	4	1	AH3	3	AH3	2	N2	2	AH3
10.24	第43週	保土ヶ谷	小学校	5	3	AH3	2	陰性	0	N2	2	AH3
11.14	第46週	磯子	小学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	AH3
11.15	第46週	泉	小学校	4	4	B(山) ^{*3}	0	—	—	—	—	B(山)
11.22	第47週	旭	小学校	1	0	陰性	1	陰性	0	N2	1	陰性
11.30	第48週	鶴見	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
12. 5	第49週	港南	小学校	5	1	AH3	4	AH3	1	N2	3	AH3
12. 6	第49週	金沢	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
12. 6	第49週	都筑	小学校	3	1	AH3	2	陰性	0	陰性	0	AH3
12.13	第50週	神奈川	幼稚園	5	5	AH3	0	—	—	—	—	AH3
12.13	第50週	港北	中学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	AH3
12.19	第51週	栄	小学校	2	2	B(ビ) ^{*4}	0	—	—	—	—	B(ビ)
12.21	第51週	青葉	小学校	4	2	AH3	2	AH3	2	N2	1	AH3
2017. 1.16	第 3週	戸塚	小学校	5	4	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1.17	第 3週	瀬谷	小学校	3	2	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1.17	第 3週	西	中学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	AH3
1.19	第 3週	中	小学校	3	3	AH3	0	—	—	—	—	AH3
1.20	第 3週	南	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
合計		18区	18施設	68件	49株	AH3:43株 B(山):4株 B(ビ):2株	19件	AH3:5件		N2:12件		AH3:48件 B(山):4件 B(ビ):2件

^{*1} 分離陰性の検体のみ表示、^{*2} N2遺伝子のみ検出は参考値、^{*3} 山形系統のB型ウイルス、^{*4} ビクトリア系統のB型ウイルス

【集団かぜ調査】

集団かぜ調査では、2016年10月12日(第41週)に緑区の中学校から報告があり、AH3型ウイルスが分離されました。発生報告はその後増加し、12月までに18区中13区で発生がみられました。終息までの発生数は18区682施設600学級でした。検査依頼のあった18集団68人についてウイルス学的調査を実施し、AH3型ウイルス48件、山形系統のB型ウイルス4件、ビクトリア系統のB型ウイルス2件が分離・検出されました(表1)。

【入院サーベイランス】

入院サーベイランス(その他依頼検査を含む)では、インフルエンザを疑う101件を検査し、AH3型ウイルス7件、AH1pdm09ウイルス1件、山形系統のB型ウイルス1件が分離・検出されました。発病時期は10月3件、12月1件、2月3件、4月1件、5月1件で、このうち、重症例は脳症2件(死亡例1含む)、肺炎1件で、いずれもAH3型ウイルスが原因でした。

全調査の検査合計は832件で、AH3型ウイルス231件、ビクトリア系統のB型ウイルス36件、山形系統のB型ウイルス26件、AH1pdm09ウイルス3件が分離・検出されました(表2)。

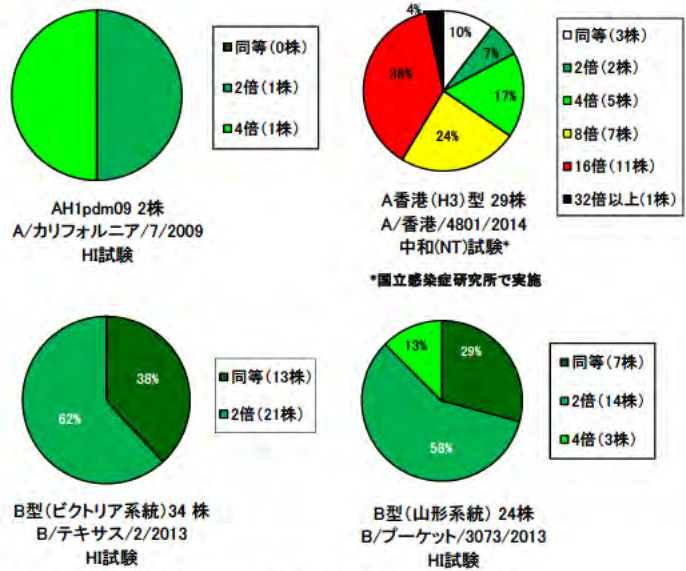
表2 インフルエンザウイルス分離・遺伝子検査結果

各調査項目	インフルエンザ検査数	陽性数	AH3	B型(ビクトリア)	B型(山形)	AH1pdm09
病原体定点等調査	663	233	176 ^{*1}	34	21 ^{*1}	2
集団かぜ調査	68	54	48	2	4	0
入院サーベイランス ^{*2}	101	9	7	0	1	1
合計	832	296	231	36	26	3

^{*1} 2016年6月に分離したB型ウイルス(山形)1件と8月に分離・検出したAH3型ウイルス2件を含む、^{*2} その他依頼検査を含む

【分離株の抗原性】

AH3型ウイルスは従来のHI試験では抗原性の差異が不正確となり、抗原解析データを示せなくなったことから、国立感染症研究所で実施した中和試験結果をまとめました。また、AH1pdm09ウイルスとB型ウイルスのウサギ免疫血清によるHI試験も参考値です(図3)。AH3型ウイルスはワクチン株であるA/香港/4801/2014と中和試験で30株中20株に8倍以上の反応性低下がみられました。B型ウイルスのうち、ビクトリア系統のウイルスはワクチン株であるB/テキサス/2/2013と、山形系統のウイルスはワクチン株であるB/プーケット/3073/2013とHI試験で4倍以内の反応性を示し、大きな変異はみられませんでした。AH1pdm09ウイルスはワクチン株であるA/カリフォルニア/07/2009とHI試験で同等～4倍差であり、類似していました。



注) HI試験のワクチン株抗血清はウサギ免疫血清のため、検査結果は参考値である。

図3 2016/2017シーズン分離株の抗原解析結果

【分離株の系統樹解析】

抗原性に関するHA遺伝子についてPCRで増幅後、ダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、Neighbor-joining法により系統解析を行いました。

AH3型ウイルスのHA遺伝子は、昨年同様サブクレード3C.2a (L31, N144S, F159Y, K160T, N225D, Q311H)に含まれ、さらに大きく4つのグループ(A~D)に分類されました。グループAはN171K, I406V, G484E変異をもつ3C.2a1に属する株で、調査したウイルス株(136株)では55.9%(76株)を占めました。グループBはT131K, R142K変異をもち14.7%(20株)の割合でした。グループCはN121K, S144K変異が共通で14.7%(20株)の割合でした。グループDは2017年以降の新しいクラスターで、N31S, D53N, R142G, S144R, I192T, Q311H変異を共通としており、14.7%(20株)の割合でした(図4)。

B型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株は、2016/2017シーズンのワクチン株であるB/テキサス/02/2013と同じクレード1Aに含まれ、昨年同様V146IやI117Vのアミノ酸置換がみられました。山形系統のウイルスはクレード3に含まれ、2016/2017シーズンのワクチン株B/プーケット/3073/2013 (N116K, K298E, E312Kのアミノ酸置換が共通)からさらにL172Q, M251Vにアミノ酸置換したグループが多数を占めました(図5)。

AH1pdm09ウイルスについては、昨シーズン流行株が多数を占めたサブクレード6B.1 (S84N, S162N, I216Tのアミノ酸置換が共通)に含まれ、他の地域で分離されたウイルス株と同様でした(図6)。

【抗インフルエンザ薬感受性サーベイランス】

全調査で分離したAH3ウイルス178株、B型ウイルス61株、AH1pdm09ウイルス3株について、抗インフルエンザ薬に対するNA遺伝子の耐性変異部位を調べました。遺伝子解析した結果、A型、B型ともNA阻害薬に対する耐性変異はみられませんでした。

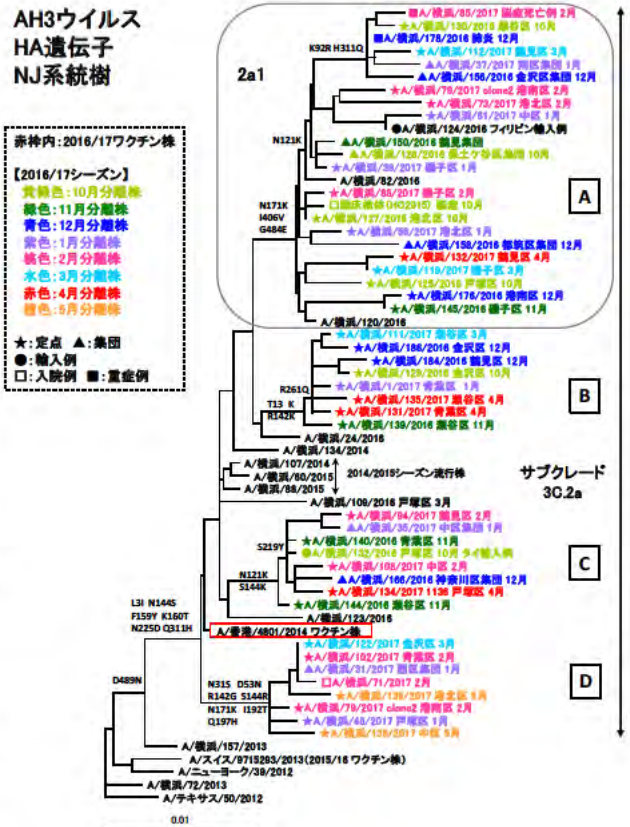


図4 AH3型ウイルスのNJ系統樹

**B型ウイルス
HA遺伝子
NJ系統樹**

赤枠内: 2016/2017ワクチン株

【2016/2017シーズン】
 茶色: 9月分離株 緑色: 11月分離株
 青色: 12月分離株 紫色: 1月分離株
 桃色: 2月分離株 水色: 3月分離株
 赤色: 4月分離株 橙色: 5月分離株

★: 定点 ▲: 集団
 ◆: 薬剤感受性低下株(D197N)
 ▼: アミノ酸挿入株(76L)
 ●: 輸入例 ▼: リアソータント株

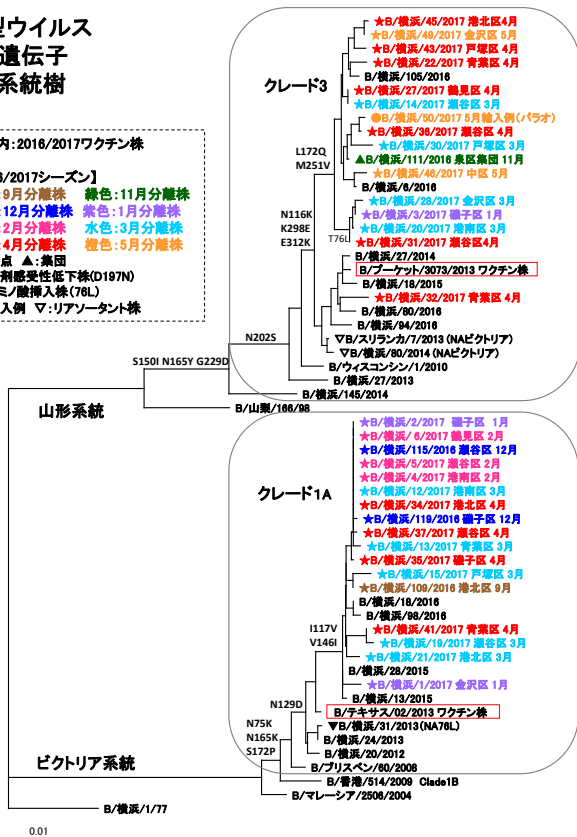


図5 B型ウイルスのNJ系統樹

**AH1pdm09
ウイルス
HA遺伝子
NJ系統樹**

赤枠内:
2016/2017ワクチン株

【2016/2017シーズン】
 黄緑色: 10月分離株
 緑色: 11月分離株
 青色: 12月分離株
 紫色: 1月分離株
 桃色: 2月分離株
 水色: 3月分離株
 赤色: 4月分離株

★: 定点 ●: 輸入例
 ◆: 耐性株(H275Y)

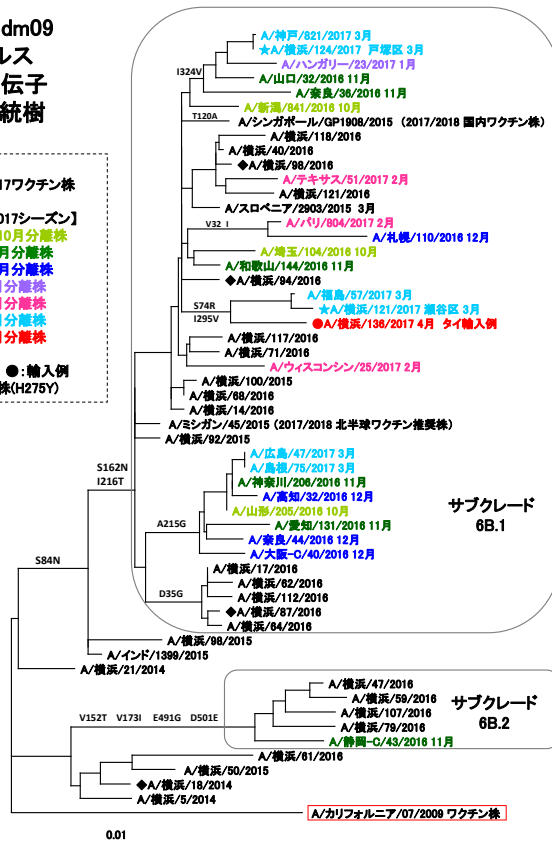


図6 AH1pdm09ウイルスのNJ系統樹

【まとめ】

今シーズンはAH3型ウイルスが主流となった2014/2015シーズンと流行パターンが類似していましたが、HA遺伝子の多様性がみられ、それぞれのグループで抗原性状や年齢層に違いがみられました。B型ウイルスは2010/2011シーズン以降両系統のウイルスが混合流行しており、リアソータント(遺伝子交雑)ウイルス等の出現に注意が必要です。AH1pdm09ウイルスはワクチン株であるA/カリフォルニア/07/2009株と類似した抗原性状でしたが、近年流行しているウイルスがワクチン接種後の成人ヒト血清によってほとんど阻害されなかったことから、WHOはAH1pdm09ウイルスの推奨ワクチン株(A/ミシガン/45/2015類似ウイルス)を変更しました¹⁾。なお、国内のワクチン株はA/シンガポール/GP1908/2015に決定しました²⁾。

インフルエンザウイルスは年間を通じて世界中を循環しています。夏の時期は海外からの持ち込みが散見されており、日頃からの感染症対策が重要です。

参考資料

- 1) WHO: Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2017–2018 northern hemisphere influenza season
http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/recommendations/2017_18_north/en/
- 2) 厚生労働省: 平成29年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou01/jichitai.html

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症のまとめ

－2016年分離株について－

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (Carbapenem-resistant *Enterobacteriaceae* : CRE) 感染症は、抗菌薬が効かない細菌、いわゆる薬剤耐性菌の一種です。国が実施している「感染症発生動向調査」で報告を求められている感染症であり、平成26年9月19日から医療機関で発生した全例について保健所への届出が義務づけられています(5類全数届出疾病)。

CRE感染症がなぜ脅威になるかという点、腸内細菌科の細菌による感染症に使用される重要な抗菌薬であるβ-ラクタム系(ペニシリン系、セフェム系、カルバペネム系など)の抗菌薬がほとんど効かず治療することが難しいということ、その耐性遺伝子がプラスミド上に存在し、異なる菌種に拡散していくことなどがあげられます。

当所では、市内で発生したCREの解析を行っており、2016年1月から12月の1年間に当所に搬入された届出対象56株および届出対象外の17株(院内感染関連株、医療機関からの精査依頼株)、計73株について結果を報告します。

菌株が分離された検体を種類別に図1に示しました。喀痰、血液、尿由来の株が多く、次いで腹膜炎などの腹腔ドレーン排液、腹水、膿瘍、胆汁などから菌株が分離されていました。届出対象外の菌株では、尿、胆汁、便からの分離が多く、患者ではなく保菌者からの分離であると思われました。

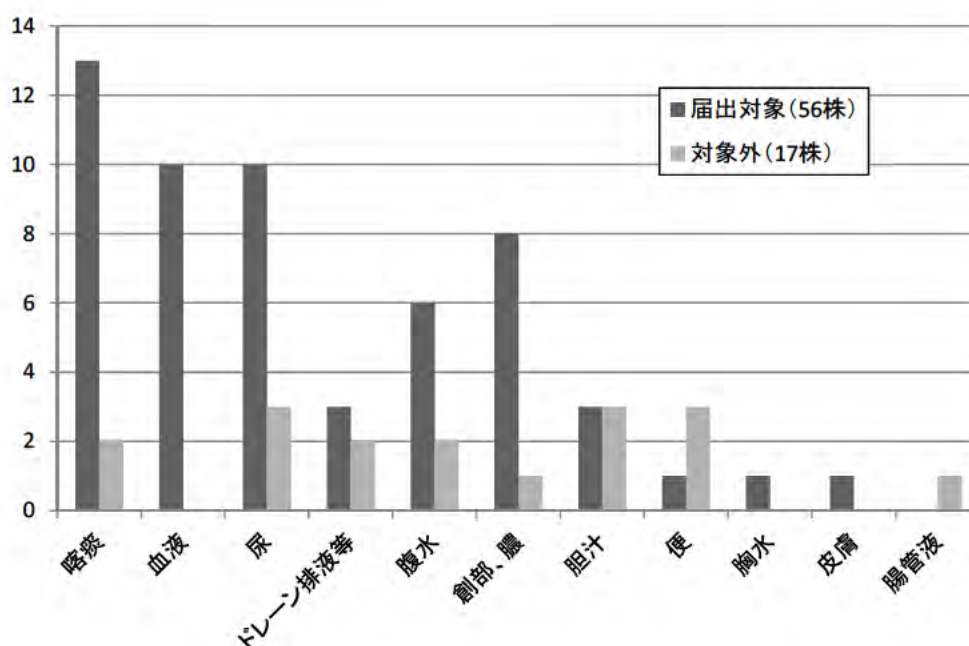


図1 検体別分離菌株数

次いで、菌株を菌種別に図2に示しました。図2に示した通り、*Enterobacter aerogenes*、*Enterobacter cloacae* が多い傾向でした。また、菌種別に公衆衛生上問題となるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (Carbapenemase-producing *Enterobacteriaceae* : CPE) であるかどうかを図3に示しました。その結果、分離数の多い *E. aerogenes* のほとんどはCPEではなく、他の菌種では約半数がCPEであることがわかりました。

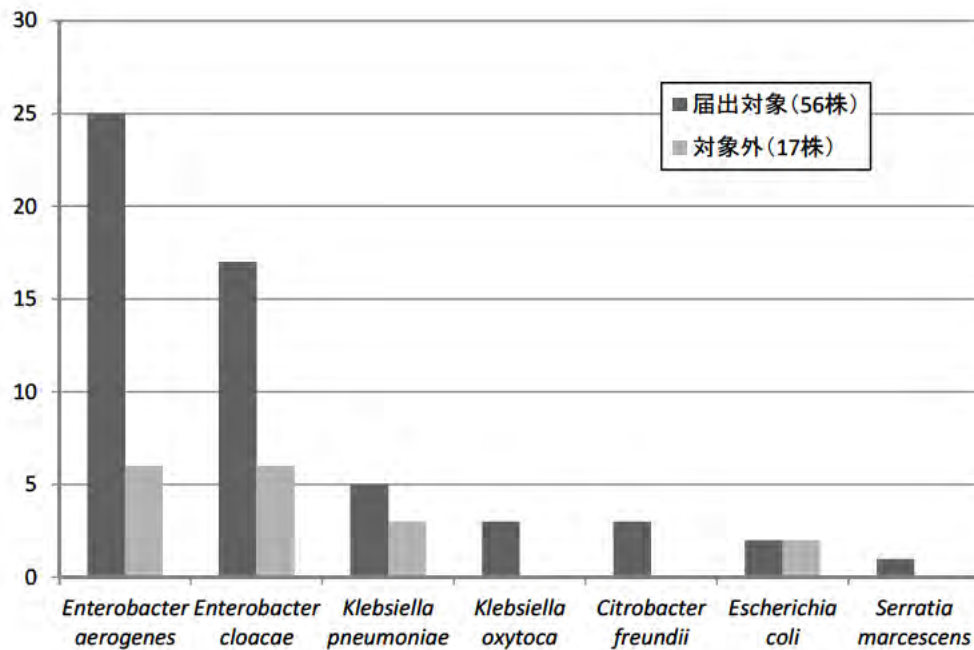


図2 菌種別分離菌株数

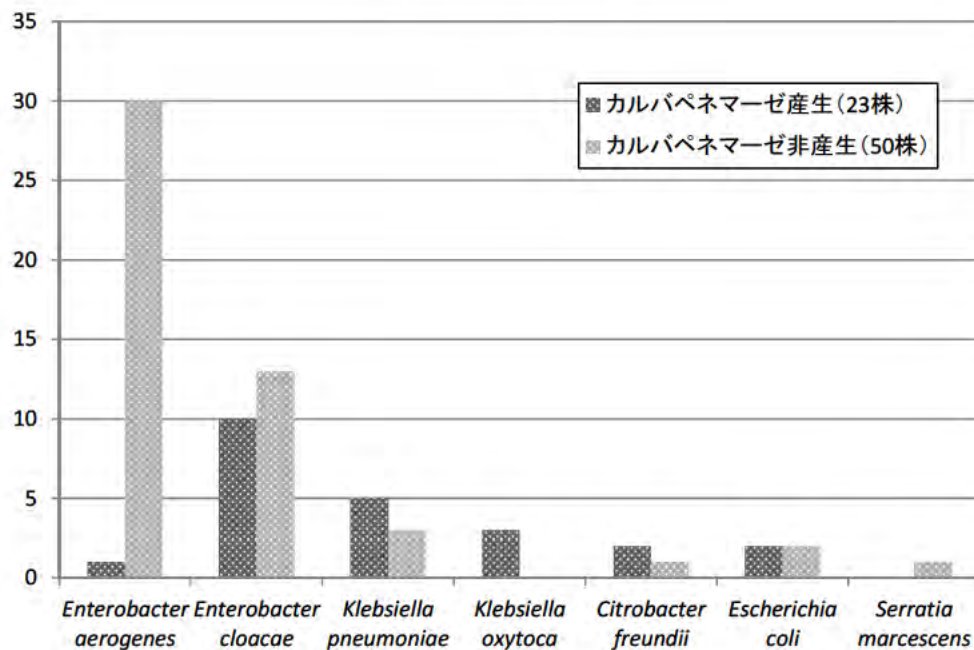


図3 菌種別カルバペネマーゼ産生株数

CPEはプラスミド上にカルバペネマーゼ(カルバペネム分解酵素)を産生しており、その型で地域での流行状況が把握できます。CPEであった23株のうち、IMP-1型が20株とそのほとんどを占め、NDM-5型が2株、IMP-11型が1株でした。IMP-1型は、関東地方で多く分離される型になります。NDM-5型は主に海外渡航歴のある患者から分離される型ですが、近年国内事例より分離される散発例が散見されています。本市の事例の患者も海外渡航歴がありませんでした。

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 7月

《今月のトピックス》

- 手足口病の流行警報が発令されました。
- RSウイルス感染症の報告が増加しています。
- 海外渡航歴のある麻しんの報告が2件ありました。

◇ 全数把握の対象

〈7月期に報告された全数把握疾患〉

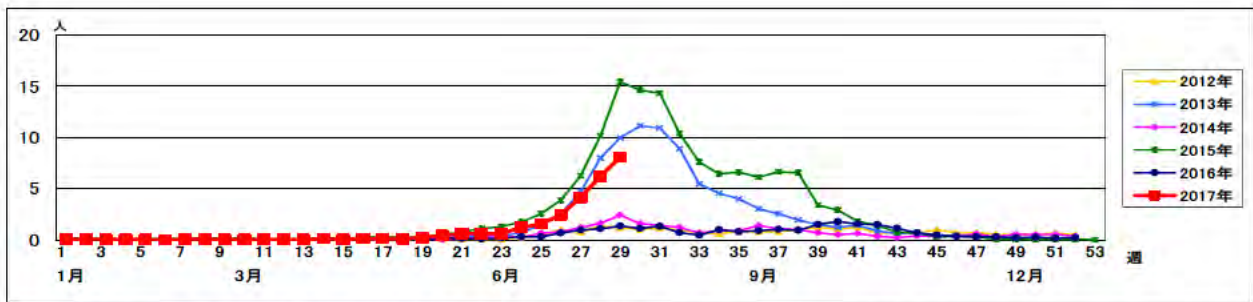
細菌性赤痢	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
腸管出血性大腸菌感染症	13件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
ライム病	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	麻しん	2件

- 1 細菌性赤痢: *sonnei*(D群)の報告が1件ありました。フィリピンでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が7件、O26の報告が5件、O103の報告が1件ありました。3件は無症状病原体保有者でした。家族内での発生の報告がありました。
- 3 デング熱: 1件の報告があり、タイでの蚊からの感染と推定されています。
- 4 ライム病: 1件の報告があり、国内での昆虫等からの感染と推定されています。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件ありました。感染経路等不明です。
- 6 アメーバ赤痢: 3件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路は、国内での異性間性的接触、同性間性的接触が1件ずつ、感染経路等不明が1件でした。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が2件、その他の報告が1件でした。感染経路は、同性間性的接触が2件、異性間性的接触が1件でした。男性が2件、女性が1件でした。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 12 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が1件ありました。感染経路・感染地域、ワクチン接種歴は不明でした。
- 13 梅毒: 12件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)がありました。いずれも国内での感染が推定され、感染経路は、異性間性的接触9件、詳細不明の性的接触が3件でした。男性6件、女性6件でした。
- 14 麻しん: 検査診断例の報告が2件ありました。いずれも感染推定地域はイタリアで、ワクチン接種歴はありませんでした。

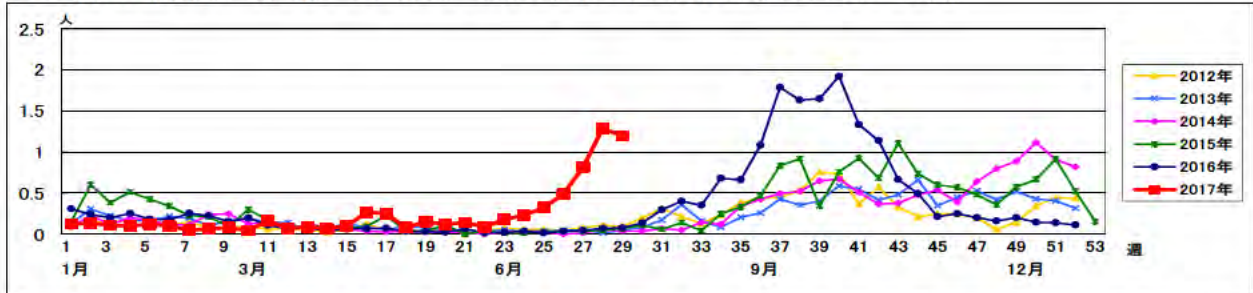
◇ 定点把握の対象

- 1 手足口病: 第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第29週は8.04と更に増加しています。

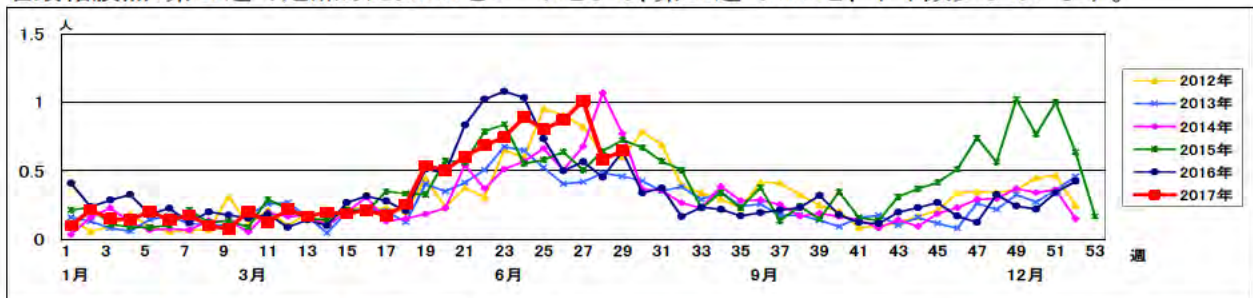
報告週対応表	
第26週	6月26日～7月 2日
第27週	7月 3日～7月 9日
第28週	7月10日～7月16日
第29週	7月17日～7月23日



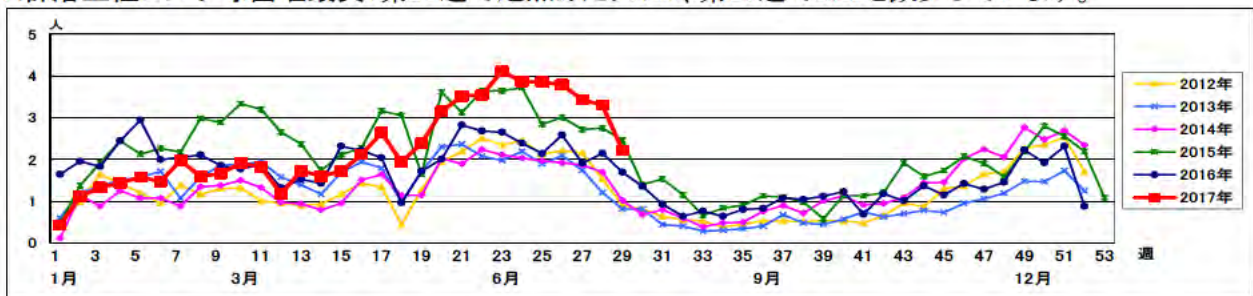
2 RSウイルス感染症:第28週で定点あたり1.29、第29週で1.19と急増しています。



3 咽頭結膜熱:第27週で定点あたり1.01をピークとして、第29週で0.65と、やや減少しています。



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第28週で定点あたり3.30、第29週で2.22と減少しています。



5 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:27件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:1件	女性:4件	淋菌感染症	男性:8件	女性:1件

6 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.50	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点13件、眼科定点1件、基幹定点13件で、定点外医療機関からは4件でした。

8月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株12例と遺伝子35例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(7月)

分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ ^{*1}	RS感染症	アデノ感染症 ^{*2}	感染性胃腸炎	流行性耳下腺炎 ^{*1}	手足口病 ^{*1}	ヘルパンギーナ	その他
インフルエンザ AH1pdm09型			2							
インフルエンザ AH3型			2							
インフルエンザ A型			1							
インフルエンザ B型山形系統	1		2							
アデノ 5型					1					
アデノ 31型						1				
アデノ 型未同定	1			1						
ムンプス							1			
パラインフルエンザ 3型	5	3								1
パラインフルエンザ 4型		1								
ヒトメタニューモ	2	1								
RS	1			3						
ライノ		1								
コクサッキー A6型	1							6	3	
コクサッキー A10型	1								1	
コクサッキー A16型								1		1
パレコ 3型										2
合計	11	6	6	4	1	1	1	6	4	3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

7月の「感染性胃腸炎」は基幹定点から*Shigella sonnei* が2件、腸管毒素原性大腸菌(O6:H-,ST)が1件、サルモネラ属菌はO4群が2件、O3,10群が1件、O7群が1件でした。定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2が5件、O157:H7,VT2が2件、O26:H11,VT1が6件、O103:H2,VT1が1件、O121,VT2が1件)が15件でした。

「その他の感染症」は小児科定点から3件、基幹定点から1件、定点以外の医療機関からが5件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(7月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	7月			2017年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	7	15	5	30	31
菌種名						
赤痢菌		2			2	1
腸管出血性大腸菌			15		3	26
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		4			10	3
不検出	1	0	0	5	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	7月			2017年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	3	1	5	25	77	122
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		9		
	T4			3		
	T6	1		4		
	T12	1		2		
	T B3264			3	1	
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌						4
G群溶血性レンサ球菌					2	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌						4
インフルエンザ菌			1	1		4
肺炎球菌		1			5	10
結核菌					20	66
百日咳菌					2	
緑膿菌					1	
その他			4		44	20
不検出	0	0	0	2	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年7月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年7月の総アクセス数は、117,716件でした。前月に比べ約21%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*168.3%、保健情報10.0%、検査情報月報5.5%、食品衛生3.4%、生活環境衛生2.2%、薬事0.7%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

7月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「カンピロバクター感染症について」、2位は「大麻(マリファナ)について」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。1位のカンピロバクター感染症は、主に加熱が不十分な鶏肉の喫食により、食中毒を起こすことが知られています。また、5位の「パラインフルエンザウイルスについて」は、他県における社会福祉施設での集団発生の報道を受けて、上位に入ったと考えられます。

表1 平成29年7月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	カンピロバクター感染症について	9,847
2	大麻(マリファナ)について	4,175
3	横浜市感染症情報センタートップページ	3,983
4	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	3,711
5	パラインフルエンザウイルスについて	3,527
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,993
7	衛生研究所トップページ	2,964
8	電子パンフレット「MRSAってなあに？」	2,439
9	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	1,936
10	平成29年 熱中症情報	1,576

データ提供: 市民局広報課

「カンピロバクター感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/campylo1.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年7月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成29年7月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
大人がかかる溶連菌について	1	感染症・疫学情報課
ヒアリについて	1	中区生活衛生課
食中毒発生状況に関する問い合わせについて	1	感染症・疫学情報課
犬に噛まれた件について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成29年7月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 平成29年7月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
7月 3日	オーストラリアのこどもの定期予防接種について	更新
7月 4日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
7月 5日	感染症に気をつけよう(7月号)	掲載
7月 5日	リベリアのこどもの定期予防接種について	更新
7月 7日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新
7月12日	平成29年 熱中症情報	更新
7月13日	ギニアのこどもの定期予防接種について	更新
7月20日	手足口病の発生状況	掲載
7月20日	シエラレオネのこどもの定期予防接種について	更新
7月27日	手足口病の発生状況	掲載
7月28日	平成29年 熱中症情報	更新
7月31日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】